

## 解析学 2 演習 3

担当 木上

演習 3.1.  $m_1$  を 1 次元 Lebesgue 測度 (の区間  $[0, 1]$  への制限) とする。 $1 \leq p < +\infty$  に対して  $L^p([0, 1], m_1)$  の Cauchy 列  $\{f_m\}_{m \geq 1}$  で任意の  $x \in [0, 1]$  に対して  $\{f_m(x)\}_{m \geq 1}$  が収束しないような例を作れ。

[ヒント:  $n = 0, 1, \dots, m = 0, \dots, 2^n - 1$  に対して  $A_{2^n+m} = [m/2^n, (m+1)/2^n]$  とおいて、 $A_1, A_2, \dots$  を定義する。  $f_i = \chi_{A_i}$  とおく。ただし  $\chi_A$  は集合  $A$  の定義関数である。]

演習 3.2.  $m_1$  を  $\mathbb{R}$  上の Lebesgue 測度とし、 $L^p = L^p(\mathbb{R}, m_1)$  とする。次の (1), (2), に対して正しければ証明し、間違っていれば反例を挙げよ。

- (1)  $L^1 \subseteq L^2$
- (2)  $L^2 \subseteq L^1$ .

演習 3.3.  $(X, \mathcal{M}, \mu)$  を測度空間とする。

(1)  $S = \{f | f \text{ は } \mu\text{-可積分な単関数}\}$  とするとき、任意の  $1 \leq p < \infty$  に対して  $S$  は  $L^p(X, \mu)$  の稠密な部分集合であることを示せ。

(2)  $1 \leq p < \infty, 1 \leq q \leq \infty$  とするとき、 $L^p \cap L^q$  は  $L^p$  で稠密であることを示せ。

演習 3.4.  $(X, \mathcal{M}, \mu)$  を測度空間とする。

(1)  $\mu(X) < +\infty$  のとき任意の  $1 \leq p_1 \leq p_2 \leq \infty$  に対して、 $L^{p_2}(X, \mu) \subseteq L^{p_1}(X, \mu)$  であり任意の  $f \in L^{p_2}(X, \mu)$  に対して

$$\|f\|_{p_1} \leq \mu(X)^{\frac{1}{p_1} - \frac{1}{p_2}} \|f\|_{p_2}$$

を示せ。

(2)  $p \in [1, \infty)$  とする。 $L^p(X, \mu) \cap L^\infty(X, \mu)$  が  $L^\infty(X, \mu)$  で稠密となるための必要十分条件は  $\mu(X) < +\infty$  であることを示せ。

[ヒント: (1)  $p = p_2/p_1, q = p_2/(p_2 - p_1), F = |f|^{p_1}, G = \chi_X$  として Hölder の不等式を使う。(2)  $1 = \chi_X \in L^\infty(X, \mu)$ .  $\|1 - f\|_\infty \leq 1/2$  のとき  $\|f\|_\infty$  は?]

演習 3.5.  $(V, \|\cdot\|)$  をノルム空間とする。

(1)  $U$  を  $V$  の閉部分空間とし  $U \neq V$  とする。このとき任意の  $\epsilon > 0$  に対して  $\|v\| = 1$  かつ

$$\inf_{u \in U} \|v - u\| \geq 1 - \epsilon$$

をみたす  $v \in V$  が存在することを示せ。

(2)  $(V, \|\cdot\|)$  を Banach 空間とする。 $D = \{v \mid v \in V, \|v\| \leq 1\}$  とおく。 $D$  が compact であるための必要十分条件は  $V$  が有限次元であることを示せ。

[ヒント: (1)  $x \in V \setminus U$  に対して  $\alpha = \inf_{y \in U} \|x - y\|$  とおく。 $\alpha > 0$  であり、任意の  $y, u \in U$  に対して

$$\left\| \frac{x - y}{\|x - y\|} - u \right\| = \frac{\|x - y - \|x - y\| \cdot u\|}{\|x - y\|} \geq \frac{\alpha}{\|x - y\|}.$$

(2)  $V$  が無限次元とすると  $e_1, e_2, \dots$  で任意の  $n$  に対して  $(e_1, \dots, e_n)$  が 1 次独立なものがとれる。 $(e_1, \dots, e_n)$  から生成される部分空間を  $U_n$  とおくと、 $u_n \in U_n$  で  $\inf_{u \in U_{n+1}} \|u_n - u\| \geq 1/2$  をみたすものがある。]